

環境教育情報センターの開設を祝う

北海道教育大学長 藤井英嘉

湿原保護の国際条約である「ラムサール条約」のわが国最初の批准地である釧路湿原を主たるフィールドとする「環境教育情報センター」が釧路校に開設される運びとなったことは本学全体としても非常に嬉しいことであります。釧路校は、永い年月をかけてこの種のセンターを概算要求の項目として掲げてまいりました。しかし、現在のような国の財政状況では、一挙にこれを実現することは大変困難な状況でありました。そこで、学内措置として今年度発足させることになりました。本来であれば概算要求によって所定の定員増を確保すべきところではありますが、それが可能な状況にないところから、釧路校における関係者の方々の負担に頼らざるをえないのであります。私としては大変心苦しいではありますが、これを全学的な「センター構想」の一環として位置づけ、まずは多くの実績を残すようお願いしたいところでありました。

本年度は、旭川校に「生涯学習センター」が、岩見沢校に「小規模教育研究センター」が同じように学内措置として発足しており、本学における念願の「センター構想」が一定の実現をみたのであります。これらのセンター構想は、もちろん概算要求によって適切な定員増を図るべきものであります。しかしながら、今次改革のなかでもそのことを明記しているところでありました。しかしながら、今次改革においても学生定員の縮減とともに教官定員の縮減も求められている現状では、センターにおける定員増はなかなか困難な状況であります。私は、このような困難な状況を克服するためには、是非とも地域社会のニーズに支えられるような実績を残すことが大切だと思っております。

地球規模での環境問題が提起されているなかで、釧路校が新課程の改組においても、環境問題を重視していることは、このセンター設置との間に整合性があるものと考えております。酸性雨の問題など釧路校が取り組んでいる現実の実績もまたこのセンター活動によって一層充実してくるのではないかと期待しております。いずれにしても、定員増のないなかでこのセンターを運営することは、その負担の面で様々な困難が横たわっていることと思っておりますが、どうか優れた実績をあげてください。そして適切な定員増が一日も早く実現するよう共に努力いたしたいと思っております。センターの設置をお祝いするとともに今後の実績に大きな期待を込めて、祝う言葉といたします。